

令和 7 年度 穎明館 中学校 入学式 式辞

やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。今年も穎明館の桜並木は見事な咲き誇り方でした。今からちょうど 40 年前、1985 年、昭和 60 年に穎明館が開校した際、兄弟校である堀越高等学校の卒業生に寄贈していただいた桜の苗木が、花咲かせたものです。新しい兄弟校のためにと送られた 60 本の苗木は、月日を経て大きくなり、毎年、立派な花を付けるようになりました。

本日、堀越学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生のご臨席を賜り、令和 7 年度 穎明館 中学校 入学式を挙行できます。私は本校校長の橋本好広です。よろしくお願い致します。

保護者の皆様、お子様のご入学、おめでとうございます。心よりお慶び、お祝い申し上げます。これから中学高校の 6 年間、穎明館教育への変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ただいま入学を許可しました 192 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは精一杯の努力と周囲の方々の支えもあって、中学入試を突破し、晴れて本校の生徒となりました。穎明館全体で歓迎いたします。まずはご家族をはじめ、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、新入生の皆さん、今年、2025 年は穎明館創立 40 周年の記念すべき年です。40 年の間、建学の精神に基づく教育活動をしっかりと行ってきました。建学の精神とは、学校を創立した先生が、どういう気持ちで学校を創ったかというその思い、教育に対する考え方です。穎明館の建学の精神は「新しい時代のリーダーを育てる」、すなわちグローバルな視野を持って時代や社会に尽くす人、貢献する人を育てるというものです。

また、穎明館の創立者は、堀越克明先生です。1919 年に東京に生まれ、東京大学を卒業した後、2011 年にお亡くなりになるまで、教育の世界で大きな貢献をされてきました。例えば 1978 年から 26 年間、日本私立中学高等学校連合会理事長、及び会長を務められた、いわば日本の教育界、私学界のリーダーです。

今日はまず創立者、堀越克明先生が、穎明館で学校長を務められていた 1985 年からの 13 年間に主に新入生に伝えていたお言葉、教えを 3 つ紹介します。

1 つ目、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」。まだまだ自分は子どもだから先が長いと思って安心していると、あっという間に年をとってしまって、自分が志している学問もできないで終わってしまう。だから光陰（時間のことですね）を大事にして、若い時代を頑張りましょう、ということです。今日からの中学校生活、時間を大切にしていきましょう。

2 つ目、「李下に冠を正さず」。おいしそうな李がなっている林の中で冠のひもを直したりすれば、李を盗んだと疑われるかもしれない。立派な人間はほんの少しでも疑いをかけられるようなことを潔しとしない、ということです。今日から皆さんは、一人ひとりが穎明館の生徒だという自覚をもって自分を律していくことが大切です。穎明館では、いじめやいじめと疑われるような行為を認めません。自律した中学生同士、励ましあって学校生活を送りましょう。

3 つ目、「穎才を研げ」。創立者の祖父、堀越修一郎先生は明治 10 年、『穎才新誌』という投稿形式の週刊雑誌を始められ、全国の青少年たちの応募漢詩文を紙上添削されていきました。この『穎才新誌』の「穎」が、穎明館の「穎」なのです。皆さんそれぞれの穎才、すぐれた才能を研きなさい。そして時代をリードできる人になってほしい。今日はその誓いを立てる日でもあります。

新入生の皆さんには、キャリア教育という授業で、改めて穎明館や創立者について学ぶ機会があります。皆さん一人ひとり、穎明館で学ぶ意味を考え、しっかりと勉強していきましょう。

ところで、新入生の皆さんは読書をしますか。読書を通じて知識を増やしたり、考え方を深めたりすることができます。これからの中学高校生活で、大いに本を読んでください。今日は私から皆さんに、エーリヒ・ケストナーの世界的なベストセラー小説、『飛ぶ教室』の一節を紹介したいと思います。この小説は、1933 年にドイツで書かれました。1933 年といえば、ドイツでナチスが政権を握った年です。ドイツの寄宿学校での、クリスマス休暇までの数日間を描いています。私が励まされた小説の一部を紹介します。

ただ自分を騙さず、人に騙されずにいてほしい。不運はしっかり見据えることを学んでほしい。うまくいかないことがあっても、たじろがず、運が悪くても、しょげないことだ。元気を出せ！ 打たれ強くあることを覚えてほしい。

いま私のいうことを、心に刻みこんでもらいたい。知恵のない勇氣は暴れ者にすぎないし、勇氣のない知恵はたわごとにとどまる！ 世界の歴史には、愚かな連中が怖いもの知らずで、知恵のある者たちが臆病である時代がくり返しめぐるってきた。それはゆがんだ状態なのだ。

勇氣ある人々が知恵深く、知恵深い人たちが勇氣を出したときようやく、これまでしばしば、まちがって使われてきたあの言い廻わし、「人類の進歩」というものを感じとれるのではなかろうか。

新入生の皆さん、皆さんは人を励ますことができますか。人から励まされたことはありますよね。この『飛ぶ教室』には同時代のドイツの人にとどまらず、時を越えて全世界の人々を励ます力を持っているように、私には思えます。

皆さんがこれからの穎明館の学校生活で、読書を通じて知識を得たり、考えを深めたりすること、そして人を励ましたり、励まされたりしながら成長していくことを心より願っています。

今日は入学式にあたり、「創立 40 周年の穎明館の建学の精神と創立者、堀越克明先生について」と「読書のもつ人を励ます力について」、お話ししました。式辞を受けとめて、192 名の皆さんが時間を大切にして、自律した生活を送り、穎才を研くことを大いに期待しています。

そして改めて今日のよき日の出会いに感謝し、喜びあいたいと思います。

穎明館 44 期生の皆さん、入学おめでとう。

以上、令和 7 年度穎明館中学校入学式式辞といたします。